



## ひとつ屋根の下で

ようこそ、誠美保育園へ、そして新クラスへ。

先日のなかよし会(入園式)、開花の早かった桜の花も、この日を待っていてくれました。期待とちよっぴりの不安が入り混じる、このふわっとした春の空気を吸い込むと、この季節特有の高揚感が湧き上がってきます。

子どもも大人も、まずは、よく泣いて、よく笑って、今の感情を思い切り表現する…そこから始めていけばいい、そう思っています。

本誌「ひぐらし」。夏の夕方に聞こえる「蝸」…ではなく、「日暮らし」。

「暮らし」という言葉の響きには、日々の苦楽や、それを乗り越えるための知恵や努力、そして、そこに集う人たちの文化のようなものを感じます。

今に夢中な「その日暮らし」

いつかに思いを馳せる「あの日暮らし」

今日こそはと挑む「この日暮らし」

子どもも、大人も…それぞれの毎日の

れは、自分が変わっていくためのエネルギーだったと考えれば、多少その苦労も報われますね。

一方で、環境が変わらないことで、安定的に過ごすことで、育つものもあります。この世に生まれ出でて間もない子どもたちとしては、遭遇するモノやコト、見聞きする事象や現象、いわば毎日の経験一つ一つが、この宇宙の摂理との出会いの連続です。しかも驚くことに、それを一つ一つ自分なりに関わりながら、確かめようとしていきます。こういったささやかな(本人にとっては重大な!)感動や意欲は、大きく環境が変化しない、一定の安定感の中で生まれてくるものだと思います。

変化の後には安定、安定を続けた後には変化、これを繰り返すことで、人は育っているのです。とはいえ、このバランスの取り方がまた、中々悩ましいものなのです。

「何を変えて、何を変えないか」

みなさんのお仕事を含め、実は世の中



うとすること…どちらにも意味があり、どちらも大切。子どもたちの育ちから見えてくるこの2つのことは、何事にも通じる原理なのかもしれません。

さて、本年度は、保育園の保育内容を規定する、新しい「保育所保育指針」がスタートする年です。足並みを揃える幼稚園の「幼稚園教育要領」と、共につながっていく小学校の「学習指導要領」も同時に改訂されています。



営みが積み重なって、このもう一つのお家の中に、私たちならではの文化を漂わせていきたい…そんな思いを込めています。今年度も毎月、園長の勝手な思いを、つらつらと書き連ねて参りますので、どうかお付き合いください。

先日、お向かいの宮上小学校の入学式にも参列させていただきました。ついこの間まで、ともに過ごしていた卒園児たちが、緊張し過ぎることもなく、かといつて、上の空というわけでもなく、周囲の声や動きを、キョロキョロと追って興味深げに観察しているように見えました。

そんな姿を見ながら、今、日本中のそこかしこで、赤ちゃんから大人まで、こうやって大きな節目を迎えている人たちがいるのだな、と思いを広げていました。

新天地、新たな環境に慣れるというのは、中々エネルギーのいるものですが、おかげで自分の新たな一面が見えてくることも事実です。あ



文部科学省の大臣室にかかる額には、「不易と流行」と書かれているそうです。

不易とはずっと変わらないこと、流行とはその時々で変えていくこと…とのことは今回の改訂においても、もちろん本質は何も変わってはいないのですが、今の、そしてこれからの時代が、少し透けて見えてくるように感じています。懇談会等を通して、そうした内容も、お伝えしていければと思っています。

本年度も、応援よろしくお願いします。そういえば、保育という文字にも、「保つ(変えない)」と「育てる(変える)」が入っていました。

園長 折井誠司

● 編集 誠美保育園  
● 発行人 折井誠司  
● 印刷所 誠美保育園  
● 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2  
電話 042-6975-1551  
ファックス 042-677-5643  
E-mail sebi@nokken.jp  
http://nokken.jp/